



# YMCA News

11

2023年11月1日発行  
1947年10月27日発行  
公益財団法人広島YMCA  
〒730-8523  
広島市中区八丁堀7-11  
Tel 082-228-1151  
Fax 082-211-0366  
<https://www.hymca.jp/hymcagcc/>  
発行人 / 竹井幸義  
編集人 / 中奥岳生  
印刷 / 広島YMCA

## 世界をつなぐグローバルユース・エンパワーメント 広島YMCA国際協力募金は活用されています



### 国際協力募金はこういった活動に使われます！

#### 1. 海外からの青少年・交流団体の受入・国際平和交流プログラム

ユースピースセミナー 海外ユースの受入 ホノルルYとハノーバーY ユースの受入  
平和の灯ろう流し 日中韓平和フォーラム ユースの派遣など

#### 2. 留学生支援

広島県在住の日本語を学ぶ留学生の学習補助・生活支援など

#### 3. 国際支援・紛争支援

フィリピンワークキャンプユースの派遣 ストリートチルドレンフードサポート  
ウクライナ避難者支援・日本語教室開催 マウイ島大規模火災緊急支援など

#### 4. 日本YMCA同盟を通しての国際支援

カンボジア教育支援 パキスタン洪水支援 パレスチナ生活支援など



### 2023-2024 日本全国でYMCA国際協力募金キャンペーンが展開されます。

#### YMCA国際協力募金とは？

毎年11月から2月末にかけて、YMCAでは国際協力募金を行っています。特に12月には、会員の方々や子ども達と街頭に立って、市民のみなさまに募金を呼びかけています。募金は、YMCAが行う国際交流活動や海外の災害緊急支援、ボランティアユースの海外派遣活動に使われます。

#### 広島YMCAでの国際協力募金の歴史

1950年12月から「お友達助け合い運動」という募金活動が始まりました。この運動は、YMCA少年部会員を中心に、毎年12月1日より20日まで寒風吹きすさぶ街頭で募金活動を展開し、支援が必要な子ども達の生活を助けました。高度経済成長により国民の生活が安定した1970年に幕を閉じ、その後、国際支援を目的としたYMCAの国際協力募金活動へとつながっていきました。



1950年代 広島本通りにて

#### ◆募金強化キャンペーン期間

2023年11月1日～2024年2月29日

◆募金目標額 **1,200,000 円**

#### 【振込による募金支援】

銀行：もみじ銀行 広島中央支店 普通 1029422  
名義：公益財団法人 広島YMCA 国際協力募金  
（株）ヒロシマワイエムシーエイ コクサイキョウリョクボキン

※寄附金領収書をご希望の方は、下記までご連絡ください。  
その際、氏名・住所・電話番号等をお知らせください。

電話 082-228-2266

公益財団法人広島YMCA 担当 木坂・長光

# 国際協力募金はこういった活動に使われます！

## 若者が考え、創り上げた国際ナショナル・ユースピースセミナー



2023年8月3日～8月7日の4日間でInternational Youth Peace Seminar (以後YPS) を開催しました。今年のテーマは「Story」です。「一人ひとりの持っている考えや思いを世界中から集まった仲間と共有し、未来への1ページを広げる」という意味を込めました。コロナ禍により活動が制限されてきた私達リーダーにとって、誰も経験した事の無いプログラムでした。YPSの準備が本格的に始動した5月から8月までの3ヶ月間、私は副リーダーとして、どのようにYPSを進めていけばいいのかが何度も悩みました。その際、いつも助けてくれたのは、共にYPSを創り上げた5人のリーダーとスタッフの方々でした。

今回のYPSを開催するまでに何度もミーティングを重ね、各リーダーが夜遅くまでプログラムの準備を進めてきました。前例がないからこそ、自分たちで新しいものを創り上げるという経験は、私にとってかけがえのない大切な宝物になりました。

また、これまでオンラインで開催してきたユース平和ミーティングを通して培ってきた創造力や問題解決力などを十分に発揮し、リーダー1人1人が主体的に行動することができました。

プログラム中では、ヒバクシャ証言、平和記念公園の慰霊碑巡りや「IPRAY」鑑賞、平和記念資料館見学などを通して、核兵器の恐ろしさやその実状について学ぶことが出来ました。また、8月6日に平和記念式典に

参加したことで、核兵器廃絶への思いがより一層強くなりました。

夜には灯ろう流しに参加し、平和への祈りを捧げました。グループワークでは、国内外から集まった参加者と「未来へ向けて自分が何をしたいのか？未来への願い」を「絵」・「寸劇」・「ダンス」・「紙芝居」で表しました。発表では、世界中の子どもが未来に対して希望を持つことのできる社会になって欲しいという思いを込めた表現をするなど、たくさんの方の「未来への願い」に触れる事が出来ました。セミナーの最後には、広島YMCAのリーダーが大好きな「ハピネス」をみんなで歌いました。私は、その幸せあふれる光景を見て、強く心を打たれ感動しました。

今回のYPSを通して、被爆地ヒロシマの記憶を多くの人に感じ取ってもらえることが出来て良かったです。また世界中から集まった参加者の方と友達になることが出来てとても幸せでした。そしてYPS開催までの、広島YMCAのリーダー達と過ごした日々は、一生忘れることの出来ない、かけがえのない大切な宝物です。

今回のYPSは4年ぶりの開催でした。私は今年のセミナーを創り上げたリーダーとして、世界中から多くの若者が広島に集い、平和を分かち合うこのYPSを、これからも主体的に引っ張っていきます。

最後になりましたが、YPS開催にあたりご尽力・ご支援くださった会員の皆さま、本当にありがとうございました。

広島YMCA国際ユースリーダー 服部 唯音



貴重な被爆証言を聞く



平和記念式典に参加



原爆の子の像に千羽鶴献納



国際協力募金は、世界の若者が広島で平和を学び日本の若者と友情を深める活動に活用されています。

## フィリピンワークキャンプ本格的に再開！



私は人生で初めて海外に行きました。その初めての海外がフィリピンということにみんな驚いていました。旅立つ前は、フィリピンの子供達と仲良くできるのか？不安でいっぱいでした。セブ島でストリートチルドレンや路上生活者とふれ合った時に、はだして歩いている子供達がいったり、体が黒ずんでいる子供達がいったりして、写真だけでは知ることが出来ない状況を知ることができました。ストリートチルドレンや路上生活者に炊き出しをした時に

、おいしく食べてくれて、子供達の助けになったかと思うと、私はとても嬉しかったです。この現状を見て、今後自分にも何かできることはないかと考えるようになりました。

2日の炊き出し支援が終わると、次はワーク地に移って小学校の建設作業をしました。最初に、子供達の大歓迎を受けたことで、より一層ワークを頑張る気になりました。日本ではセメントを作る時や、木材や岩を撤去する作業の時は全部機械でやっているのに、フィリピンでは手作業ということに驚きました。ワーク作業が一番大変だったことは、セメントに使う土を運ぶ作業でした。とてもしんどかったです。ですが、いいトレーニングにもなりました。日本に帰る際、2週間サポートしていただいたセブYMCAの方々とは別れるのが寂しかったです。今後どういった支援ができるのかを色々考えていきたいと思います。

2019年度参加報告書より 社会体育科2年(当時) 辻 拓実



国際協力募金は、フィリピンセブ島の小学校建設資材費やストリートチルドレンへの食事提供費用、ワークキャンプに参加する学生の渡航費補助に活用されます。

※2019年度以降フィリピンワークキャンプは、コロナ禍の影響で中止となっていましたが、2024年3月から本格的に再開いたします。

## いまだに続く紛争・ウクライナの方々の支援！

日本YMCAでは、ヨーロッパにおけるネットワークを活かし、ウクライナ隣国のYMCAの協力を得ながら、2022年3月初旬から1年間でウクライナ避難者165人の来日を支援しました。

日本各地で受け入れが実施され、広島YMCAにおいてもウクライナから避難されてきた方々に対して、国際協力募金を活用した「子育て支援事業」、日本で生活するための「日本語教育事業」、地域コミュニティと交流するための「異文化交流イベント事業」等を展開しています。

## 平和記念公園に響く平和の歌声！

YMCAでは2022年7月から8月、9月～10月、11月～2023年1月の期間でウクライナから避難されてきている方々への日本語教室を行ってまいりました。当初日本語が話せなかった方々も、簡単な日常会話ができるようになり、徐々に日本の生活に溶け込めるようになってまいりました。

そういった中で日本語の勉強をしている親子のお二人が8月6日に平和の祈りコンサートにも出演しました。お母様のヤナさんはプロの歌手として仕事をしてきた方で、この1年歌手としての仕事を続けたいと強く願っていましたが、8月6日にやっとその願いがかないました。平和を祈る2人の歌声が、平和記念公園に心地よく響きわたっていました。

しかし、紛争はまだ収束する気配はありません。YMCAも引き続き避難者へのサポートを継続してまいりますので、国際協力募金へのご協力をお願いいたします。

